

学校と住民 合同で訓練

仙台・七郷中学区

いのちと
地域を
守る

仙台市若林区の七郷中学区の住民らが27日、七郷小を主会場に、初めての学校との合同防災訓練を実施した。地元住民と七郷中や七郷、荒浜岡小、七郷幼稚園の子どもら計約2000人が参加した。

震度6強の大地震が発生したと想定。参加者は、避難所となる七郷小で居住地区ごとに割り振られた体育館や教室に待機した。各地区単位で避難行動を確認した後、七郷中の生徒が小学生を対象に止血の仕方など防災に関する知識を発表した。

訓練は、七郷地区町内会連合会が中心になり実施。加藤止敏連合会副会長(71)は避難意識の高揚を図り、住民同士の顔が分かる関係を築きたい」と狙いを語った。



中学生の説明を聞く児童ら

(2014年9月28日河北新報朝刊)

①この防災訓練にはどのような人々が参加していましたか。また、およそ何人の人が参加しましたか。本文から読み取りましょう。

①	②	③
	中学校生徒	小学校児童
④	⑤	☆およその参加者
小学校児童	幼稚園園児	人

②この防災訓練では幼稚園・小学校・中学校の子どもたちが、「顔の見える関係づくり」をテーマに、保護者や地域の大人たちとともに子供会の班ごとに活動しました。あなたは、大きな地震など万が一の時、身近に助け合える人はいますか。また、どのようなことで助け合いたいと思いますか。

助け合いたい人	助け合いたいこと

年 組 名前

(小学校中学年～中学校/学級活動)